

風立ちぬ

風の街の中学校の窓から

庄内町立立川中学校
学校便り
2017.12.1

文責：校長 佐藤 真哉

素直に聴く心と強い意志 齋藤清さん後輩に語る！

1月25日に家族参観とPTA主催の教育講演会が開かれ、卒業生で卓球元日本チャンピオンの齋藤清さんが「夢と希望を持って」と題して後輩達に夢を抱くことの大切さを伝えてくれました。来賓として中学校時代卓球の指導にあられた齋藤二三さんと志田博志さんから出席していただきました。沢山の御家族、地域の皆様方から来校していただき誠にありがとうございました。*下記は、講話への感想を参観者からいただいたものです。

◎これから将来に向かって進路決定に悩む子供達の心に響く熱い人柄が伝わってくる講演会でした。親や先生だけでなく様々な経験をした大人の話を知ってこれからの生活に役立ててほしいと思います。卓球の対戦や子供達の司会と今までにない進行で楽しくお話を聞くことができました。
◎とても良い講演だった。卓球試技もありこの時でなければできない体験になったと思う。生徒の質問もあり、8度の優勝を得た齋藤清氏でなくては答えられない返答であった。そしてその返答（「負けたら、その2倍練習する！！」）にすごいな、強いなと感じた。子どもの心にも響いたと思うので、そばで応援していきたいと思った。せつかくの良い講演だったので、より多くの保護者に聞いてもらいたかった。
◎講師の素朴で素直な人柄がにじみ出ている講演だったと思います。全日本8度制し世界で活躍するようになって自分の卓球人生のルーツである故郷や導いてくれた人々への感謝の気持ちを持ち続けている事がすごいと思えます。出会いや関わる人々を大切にすること、勝利を目指す環境を整えられ栄光の道を歩んでこられたのだらうと思えました。勝ち続けるためには、練習量を当たり前にできる事、人に言われなくてもできるようにする事、負けた時の気持ちの切り換え方等の講話から目標を持ち、叶えるための心の持ち方を教えられたと思います。



齋藤清氏講演



生徒が進んで質問



教員代表がチャレンジ



卓球部員がチャレンジ



志田博志氏と40年ぶりに



3年男子決めた（歓喜）！



館内が1つになり応援！



記念撮影



記念撮影（校長室）

最上川舟唄に元気もらおう！

上野栄久さん（登米市）

12日、山形県庄内町の合唱仲間の招きで、同町「響ホール」であった合唱祭に宮城県南三陸町の合唱団「コール潮騒」の一員として参加した。庄内町に車で向かう途中、最上川がゆったりと流れる風景が目に入り、何気なく同乗の仲間に「今日の合唱祭で『最上川舟唄』が聞けたらいいなあ」とつぶやいた。現地に到着し、合唱祭プログラムを見ると、何と、庄内町立立川中学校の発表曲の『最上川舟唄』があるではないか。その立川中に出番になった。♪一イサノマガーショ…冒頭の歌詞をホール全体に響き渡らせ、続く追分の節回しを難なくこなす。私達は最上川舟唄の世界に引き込まれてしまった。生徒達は誰もが、自分の持ち歌という表情で歌っていた。立川中では、最上川舟唄を、先輩から後輩へ大事に歌い継いでいるとのことだ。納得した。合唱祭では、それぞれ合唱団が持ち味を発揮し、心地よい達成感に浸ることができた。何よりも立川中の最上川舟唄から元気を頂戴した。わが合唱団は、南三陸町に元気を届けることが活動の柱になっている。だが、「たまには、あなた方も元気をもらうように」と言われたような気がした。

☆上記の文章は、1月26日の河北新報（宮城県の河北新報社が発行する日刊新聞）「声の交差点」に掲載されたものです。

7月から全校生徒が、より良い合唱を創り上げようと五十嵐久先生のご指導のもとに素直な心で練習してきました。こんなに県外の方からも反響があり驚いています。（合唱パワー恐るべし！！）
これからも純粋に音楽（すなわち音を楽しむ＝合唱を楽しむ）を楽しむことを大切に合唱をみんなで創り上げ、御家族に感謝し地域に貢献できるように歌い継いでいきましょう！（25日の合唱歌納めも良かったよ！）